

## 第2回門真市パークイノベーション計画審議会

開催日時：令和3年10月28日（木）14時00分から16時00分

開催場所：門真市役所本館2階 大会議室

出席者：

（門真市パークイノベーション計画審議会委員）4名中4名出席

加我会長、佐久間副会長、松本委員、良委員（※名簿順）

（事務局）

道路公園課 橋本課長、内海課長補佐、米元主査

株式会社ヘッズ（業務受託業者） 田中、岡本、稲熊、松原

傍聴者数：1名

会議次第：

1. 挨拶

2. 議事

案件1 第1回審議会の意見とその対応

案件2 計画策定作業の進捗状況と今後について

案件3 公園とみどりの現状カルテについて

案件4 市民ワークショップの進捗状況と今後の進め方について

案件5 門真市パークイノベーション計画策定に向けた今後について

3. その他

会議録

司会	<p><b>【次第1. 挨拶】</b></p> <p>本日はご多忙にもかかわらず、ご出席いただき誠にありがとうございます。司会を務めさせていただきます、まちづくり部道路公園課長の橋本と申します。</p> <p>定刻になりましたので、ただいまから第2回門真市パークイノベーション計画審議会を開催させていただきます。</p> <p>本日は、委員4名中4名がご出席されており、門真市附属機関に関する条例施行規則第5条第2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>なお、後にございます審議の結果によるものではございますが、後日議事録を作成させていただくために、会議内容を録音させていただきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>また、ご発言に際しては、お手元のマイクのボタンを押して行っていただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、案件に入らせていただく前に、本日の資料を確認させていただきます。</p> <p>1点目 会議次第</p>
----	--

<p>加我会長</p>	<p>2点目 資料1-1 第1回審議会の意見とその対応表  3点目 資料1-2 第1回パークイノベーション計画策定審議会議事録  4点目 資料2-1 計画策定スケジュール  5点目 資料2-2 公園とみどりの現状カルテとワークショップの進め方について  6点目 資料2-3 今後検討すべき基本的な方向性案（市民ワークショップを通じて）  7点目 資料2-4 利用実態調査実施概要  8点目 資料2-5 市民アンケート調査実施概要  9点目 資料2-6 子どもアンケート調査実施概要  10点目 資料2-7 公園の配置状況及び社会条件  11点目 資料3 公園とみどりの現状カルテ  12点目 資料4-1 かどまパークミーティングの進捗状況と今後について  13点目 資料4-2 かどまパークミーティングニュース1号  14点目 資料5 社会実験について  でございます。</p> <p>資料につきましては、後ほど順次、議事進行の中で使わせていただきますので、よろしくお願ひします。</p> <p>もし、不足の資料がございましたら、お申し出ください。</p> <p><b>【次第2. 議事】</b></p> <p>皆様、よろしくお願ひします。それでは、第1回審議会の意見とその対応について、事務局からご説明をお願ひします。</p>
<p>事務局</p>	<p><u>案件1 第1回審議会の意見とその対応</u></p> <p>まちづくり部道路公園課の内海でございます。</p> <p>お手元の資料1「第1回審議会の意見とその対応表」について説明させていただきます。</p> <p>前回の審議会では、策定目的の再確認、現状把握や市民ワークショップ、市民アンケート、社会実験などを進めるにあたり、ご意見を頂戴いたしました。本日は時間の都合上、説明は省略させていただきますが、各ご意見への対応方針をお示ししておりますので、ご確認いただき、ご質問などございましたら、ご意見を頂戴できればと考えております。</p>

加我会長	<p>ありがとうございました。それでは、資料 1-1 と 1-2 が前回審議会の意見に関する資料です。資料 1-1 にて、策定目的から策定スケジュール、誘致圏域の考え方、市民ワークショップについて等、ご意見いただいています。これらについて、各議題のところで意見への対応を含めてご紹介いただける予定です。</p> <p>これを受けて、計画策定スケジュールを見直していただいていますので、案件 2 の説明をお願いします。</p> <p><u>案件 2 計画策定作業の進捗状況と今後の予定について</u></p>
事務局	<p>それでは、資料 2-1 計画策定作業スケジュールに沿って説明させていただきます。現在、基礎資料等による現状把握、利用実態調査や各種アンケートによる利用状況及び市民ニーズの把握が概ね完了し、後ほど詳細のご説明をさせていただきます「公園とみどりの現状カルテ」として、整理を進めているところでございます。</p> <p>また、市民ワークショップにおいては、市内全域を対象とした第 1 回、6 つの中学校区ごとに実施した第 2 回を終えたところでございます。</p> <p>次に、社会実験については、前回の審議会でのご意見を踏まえるとともに、当事業にご賛同いただいた事業者の方々とも協議する中で、実施に向けて考えるプロセスが重要であること、そのためには早期の実施が望ましいということから、前倒しにて子どもの居場所として開設している「子ども LOBBY」等と連携して実施しております。</p> <p>今後の予定につきましては、本日のご議論を踏まえ、本市の公園の現状と課題を精査するとともに、残りの市民ワークショップを実施し、その結果も踏まえて基本理念及び基本方針、公園再整備及び再配置方針を検討し、次回の審議会において計画骨子案としてご提示できればと考えております。</p> <p>計画策定作業の進捗状況について、全体のスケジュールの中での進捗状況と今後の予定について、ご意見頂戴できればと思います。</p>
加我会長	<p>まずは、計画策定作業の進捗状況と今後の予定について、ということで、資料 2-1 でスケジュールをご紹介いただきました。確認になりますが、この審議会はオレンジ色の計画審議会となります。5 月 10 日に第 1 回を開催し、その後アンケート、市民ワークショップを実施いただき、本日の案件になっている公園とみどりの現状カルテへ反映していただいております。本日は 2 回目となります。前</p>

事務局

回、スケジュールについてご意見いただきましたのが、赤い星印で示されている社会実験の結果を計画に十分に反映していきたいということで、3月にイベントを実施した後に、審議会でも2回議論できる形にさせていただきました。

それでは、これまでの5ヶ月間で実施されてきたことを踏まえ、本日の本題の公園とみどりの現状カルテの方へ進めていきたいと思っております。

それでは、公園とみどりの現状カルテとワークショップの進め方について、資料2-2に沿って説明させていただきます。

基礎調査等による6つの中学校区の特性を整理した「公園とみどりの現状カルテ」を作成しており、検討が必要な事項について、市民ワークショップの検討内容や結果をカルテに反映し、検討状況や実施結果を相互に取り込むことで、内容の充実を図りながら進めております。

カルテの詳細につきましては、案件3にて、また、市民ワークショップの進捗状況と今後の予定については案件4にてご説明させていただきますが、今後の方向性について先にご説明させていただいた方が、各検討結果のご確認やご議論をしていただきやすいと思っておりますので、基本的な方向性案について、資料2-3に沿ってご説明させていただきます。

資料2-3をご覧ください。

これまでの市民ワークショップを通じて、貴重なご意見を多く伺うことができましたので、今後の計画策定に向けて、検討が必要と考える事項を示しております。

まず、1点目として、市民ワークショップでは、「大きな公園も中くらいの公園も、近所の人にとっては身近な公園である。」「中くらいの公園や小さな公園は、規模や立地状況に応じて役割分担をしてはどうか。」とのご意見をいただきましたことから、地域ごとに異なる公園の立地状況を踏まえ、公園の規模に応じた役割分担について検討する必要があると考えております。

なお、公園の分類は、3つに分類しており、3.5haの弁天池公園と、ヘクタール規模の四宮公園と北打越公園の3公園を「大きな公園」とし、市民ワークショップなどで公園の利用状況などを拝聴する中で、各地域の中心的な公園として利用されている公園の面積が、概ね1,500㎡から3,000㎡程度であることから、1,500㎡以上の公園を「中くらいの公園」、1,500㎡未満の公園を「小さな公園」としております。

2点目としまして、小さな公園について、公園の隣が住宅や工場などに囲まれているなどの隣接環境や、道路に面している、袋小路にあるなどのアクセス性によって、利用しやすい公園か、その利用内容に大きく関係している様子を伺うことができました。このため、小さな公園の特化や機能分担を図るにあたり、隣接環境とアクセス性に応じた利活用の可能性について検討する必要があると考えております。このことから、カルテにも、各公園の隣接環境やアクセス性に関する情報を示しております。

3点目としまして、弁天池公園などの地域を越えて多くの方々が利用する公園について、これまで本市では例のない若者や子育て世代の興味を引くようなイベントや、目玉となる大型遊具、スケートボードなどの新たな遊び場としてのニーズを把握することができましたので、本市のイメージアップにもつながる魅力的な公園づくりについて検討する必要があると考えております。

以上、3点について、第3回ワークショップで意見交換いただけるような手法で実施し、カルテと合わせて、今後の方針検討に活かしてまいりたいと考えております。

次に、利用実態調査、各種アンケート調査の実施概要について、ご説明させていただきます。

なお、これらの調査結果につきましては、カルテにも反映させておりますので、ここでは結果概要を簡単にご説明させていただきたいと思っております。

まず、資料2-4 利用実態調査実施概要をご覧ください。調査期間は、令和3年3月30日から5月4日までの期間において、各公園平日2日、休日2日、計4日間実施しました。調査対象は、全公園165箇所、調査手法は、8時から18時まで、1時間ごとに目視による調査を実施しました。調査項目は、利用人数、主な利用者、主な利用内容、性別となっております。

結果につきましては、カルテにて、1日あたりの利用者数、主な利用内容、利用者層、利用時間帯を示しておりますので、詳細な説明は省略させていただき、結果概要を簡単にご説明いたします。

2ページをご覧ください。各公園の利用者数は、1日あたりの利用者数が多い上位20位までを示しております。これらの公園は、1日中、どの時間帯に行っても誰かがいる、といった状況の公園となっております。

また、利用者がいない、またはほとんど見られなかった公園についても把握しており、カルテには1日あたりの利用者数が4人までの公園を紫色、利用者がなかった公園をグレーで示しております。

	<p>次に、資料 2-5 郵送アンケート調査実施概要をご覧ください。郵送アンケートは、市内在住の 16 歳以上の市民から 1,500 名を無作為抽出し、郵送による配布・回収を行いました。配布に対し、438 通の回答があり、回収率は 32.2%でした。</p> <p>2 ページをご覧ください。回答者の年齢層は、10 歳代から 20 歳代までの若者層が約 12%、子育て世代の 30 歳代から 40 歳代が約 25%、50 歳代から 70 歳代がそれぞれ約 20%ずつとなっております。</p> <p>次に、資料 2-6 こどもアンケート調査実施概要をご覧ください。こどもアンケートは、こども達の公園の利用状況や、今後の新たな遊び場としての公園の可能性について把握することを目的に、5 月に実施しました。アンケートは市内全小学校・中学校の小学 2 年生、5 年生、中学 2 年生を対象に実施し、合計 1,075 人の児童・生徒から回答いただきました。設問は、「よくいく公園の名前」、「公園で何をして遊んでいるか」、「やってみたいと思うことは何か」、の 3 問となっております。</p> <p>各地域の結果はカルテにも示しておりますが、「よくいく公園」については、子ども達の年齢層によって、どの年齢層にもよく利用される公園もあれば、特定の年齢層の子ども達を中心に利用されている公園があることがわかりました。「公園で何をして遊んでいるか」「やってみたいと思うこと」についても、各地域の公園の配置状況や施設の有無などに応じて、地域ごとに異なる結果となっていることがわかりました。</p> <p>次に、資料 2-7 公園の配置状況及び社会条件については、前回の審議会においてもお示しさせていただいておりますが、カルテの作成にあたり、改めて参考資料としてご用意させていただいておりますので、説明につきましては省略させていただきます。</p>
加我会長	<p>ありがとうございました。案件 3 の方で、利用実態調査、アンケート結果、ワークショップの結果についての詳細は、公園とみどりのカルテに反映されているということですので、ここでは特に、資料 2-2、2-3 についてご意見をいただきたいと思います。</p>
佐久間副会長	<p>質問が 2 つあります。資料 2-4 の利用実態調査で、通り抜けはどのようにカウントされていますでしょうか。普通の広場の場合は滞留するだけでなく通過する人も多いです。人の目という意味では、それはそれで意味があるなど思いながら、どのようにカウントされたのかが気になりました。</p> <p>もう 1 つは、資料 2-3 の公園のタイプについて、おそらく、カル</p>

	<p>テにこの情報が反映され、今後の公園再編に向けた意見をまとめていくうえでのベースになると思って拝見していました。この6類型の基準がわかりづらいと思いました。学術研究ではないけれども、私なりに理解したのは、左側の4つ、住宅囲まれ型、ちょっと開放型、立ち寄り型、施設隣接型は、隣接する施設で類型されているという理解でよいでしょうか。図に道路が入っていたり入っていなかったり、要素が多いのでわかりづらくなっているかもしれないですが、施設によって類型されているということでしょうか。また、奥まり型と袋小路型は施設ではなく道路状況によって分類されていると思ったのですが、住宅囲まれ型のサブカテゴリという理解で良いのか、といったことなど、6類型の整理の仕方を、そこまで細かい整理をしなくてもいいのかな、と思いながら、例えば奥まり型で工場の場合のタイプはないのか、と思いました。</p>
加我会長	<p>まず、利用実態調査の滞留行動に加えて通過行動をどのように捉えられたのかについて、事務局の方からお願いします。</p>
事務局	<p>通り抜けについては、既存の公園の中でも利用するというよりは、自転車で通過するなど、駅までの生活動線上にある公園でよく見られていましたので、1時間ごとの目視調査の中でカウントしました。明らかに滞留せず通り抜けられたようなものをカウントしています。</p>
佐久間副会長	<p>その他に入るといえるのでしょうか。</p>
加我会長	<p>資料 2-4 の p1 の主な利用内容の選択肢の中に通り抜けが無い。アンケートでは、よくいく公園の目的で通り抜けという項目で聞いていますが、利用実態調査では、主に滞留されている方を調査されている。ただし、この中に、滞留を中心に、散歩、というものもあります。これは、公園の中をぐるぐる回っている人をカウントされていて、調査員の方が1時間ごとに行った時に目視でたまたま通った方というのは、ほぼカウントされていないように思いますが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>カウントされているとしても、その他の項目で確認しております。その他の項目の中で、調査員の方で具体的に通り抜けという記述をしているところもあり、そういったところでは、利用実態調査の中でも把握できています。ただし、事前に、通り抜けが見られた</p>

<p>加我会長</p>	<p>場合はその他の欄に記述する、という指示は調査員に一律にはしておらず、個々の調査員の判断でのことなので、記述があったところに関しては、把握しているという形になります。</p> <p>通り抜けされている状況になっているかどうかについては、資料2-3の小さな公園の特化の形態によっても変わってくるかもしれませんが。また、佐久間先生のご指摘のように、一定時間続けて見ていると、小さな公園の利用の大半は通り抜けだということも言われており、国の調査でもそのような結果が出ています。通り抜けできそうな、してもらえる公園というのは大事かもしれない。滞留行動と、通り抜けできそうかどうかも含めて見ていければと思います。アンケート調査の方では、主な利用内容は何か、という設問で通り抜けをお聞きしているということでした。</p> <p>次に、資料2-3の小規模公園の特化について、小さな公園の分類を考えてみたということで、こちらの考え方についてご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ワークショップ前に利用実態調査を実施しており、その中で小さな公園はおおよそこのような形ではないかということと、今後の利用転換を検討する中で、住宅が隣接している公園でもできること、工場地や接道が開放型で直接家屋と隣接していない公園でできること等の視点で特徴づけしていくことを考えました。また、ワークショップにおいて、公園での禁止行為があまりにも多いのではないかと、というご意見をいただいたので、どちらかという、もっと利用していただけるように、どのように転換していけば、地域に受け入れていただけるのかを考える中で、このように分類し、本日ご意見いただきたくお示ししているところです。佐久間副会長のご指摘のように、もう少し、類型方法を検討したいと思います。車付けができるかどうかとか、徒歩や自転車限定なのかなど、そういったことも踏まえ、最終的にはもう少し細かく検討したいと思いますが、現状把握の中では、ほぼこの6つのタイプで網羅できているのではないかと考えています。しかし、この6類型にすべての公園が合致する訳ではないため、ご指摘の視点もふまえ、検討していきたいと思っています。</p>
<p>加我会長</p>	<p>私が拝見すると、まず、アクセス性で大きく分けているのではないのでしょうか。まず、一面接道なのか一箇所接道なのか、二面接道なのか、ということではないのでしょうか。接道のランクで考えると、</p>



	<p>右端、左端、真ん中という順番では、という感じ。さらに、一面以上接道しているものについては、隣接する建物を見ているということではと思います。立ち寄り型で、一面接道でコンビニがある、これは接道条件に加えて隣接環境を見ている。アクセス性の良いものに関しては隣接環境を見ている、一箇所接道のものについては隣接環境を見えていない、というようになっています。もうひとつ、前提として、公園は住宅地域にあり、住宅が周りにあるということが基本であると思います。それ以外のものがある場合に、隣接環境を見ているということになっているのではないのでしょうか。フローではうまく説明できないかもしれません。</p>
佐久間副会長	<p>フローでなければマトリクスになると思います。接道状況と、住宅のみ・工場・商店・施設という感じで、3×3くらいになる。それに当てはまらない公園もあると思います。そのような形でロジカルに整理はしていただき、当てはまるものはA-1とか、名前は何でも良いので整理するとスッキリすると思います。</p>
加我会長	<p>それでは、資料2-3の方向性を踏まえながら、カルテをみていただき、議論できればと思います。</p>
事務局	<p><u>案件3 公園とみどりの現状カルテについて</u></p> <p>それでは、公園とみどりの現状カルテについて、資料3に沿ってご説明させていただきます。</p> <p>案件2にてご説明させていただきました基礎調査の結果を整理し、地域の特性を示したものが、公園とみどりの現状カルテとなっております。</p> <p>まず、カルテの構成についてご説明させていただきます。</p> <p>カルテは、6つの中学校区ごとに作成しており、大きく3つの項目で構成しております。</p> <p>1つ目の項目として、「①公園の機能と周辺状況」についてであります。図面には、公園の現状の機能と、周辺地域の状況等について図示しており、凡例に沿ってご説明させていただきます。</p> <p>まず、公園種別については、公園の規模に応じて3つに分類しております。次に、分断要素となる鉄道、道路、河川等、次に、公園の機能として、遊具やベンチなどの公園施設をアイコン形式で示しております。次に、公共公益施設として、各種施設を示しております。最後に、都市計画関連の情報として、用途地域や生産緑地、密</p>

集市街地などの指定状況を示しております。

これらの情報に加え、各公園の台帳番号、名称、整備面積とともに、公園名の右に「周」や「ア」と示しておりますのは、公園のすぐ隣の土地利用の状況について、「周辺環境」や、公園までの「アクセス性」について示しております。

この図面をもとに、公園の機能と周辺状況の概況を左側の枠内に記載しております。

次に、「②公園の利用特性」についてご説明いたします。こちらには、「①公園の機能と周辺状況」の情報に加えて、利用者数、主な利用者層、利用内容、時間帯などの利用特性を追加しており、利用者数については1日あたりの利用者数を表しています。

また、機能のアイコンと色を反転させた白地のアイコンは、主な利用内容を表しており、上下のアイコンを見比べて、例えば、同じ色のアイコンがそろっていれば、機能に応じた利用がある、上段の機能のアイコンがあっても、下段の利用のアイコンがなければ、施設はあるのに利用されていない、反対に、施設が無くても利用されている、といったように見ることができます。その下の①から③は、それぞれ主な利用者層、利用内容、利用時間帯を示しておりますので、詳細な利用状況を確認することができます。

また、公園の位置にある円は、利用人数に応じ、大きさ、色分けをしております。

これらをまとめて一枚の図面にするとともに、公園の機能と周辺状況、利用実態からみた現状として、左側の枠内に記載しております。また、併せて枠内の下には年齢3区分人口割合を掲載しております。

続いて「③市民アンケートと子どもアンケート」につきましては、地域別集計結果の抜粋を、市全域の結果と併記して示しております。

以上が、カルテの構成の説明です。

それでは、あらためて、はすはな中学校区についてご説明させていただきます。この地域は、京阪沿線に商業地が広がり、通勤・通学や買い物など人々の往来が多いエリアに数多くの小さな公園が存在しており、休憩などの立ち寄り利用や通り抜け利用が多く見られます。また、住宅の建て替えが進むなど、子育て層が増加しています。

また、小さな公園の中には、遊具などの施設の老朽化や、利用ニーズとの不一致などにより、あまり利用されていない公園が複数見られます。

また、旧第一中学校跡地とその周辺エリアでは、古川橋駅北側から幸福町公園にかけて、生涯学習複合施設や交流広場の整備など、新たなにぎわいと交流の拠点づくりが進められています。

次に、大阪中央環状線以西は、旧集落を含む住宅地で、中くらいの公園である茨田公園や複数の小さな公園が分散して存在しています。住民は高齢者層が多いエリアとなっています。

利用特性としましては、駅周辺の公園では、休憩での利用や飲食、散歩の利用が多く見られ、買い物などの日常生活の中で公園が利用されている様子が伺えます。

また、多数存在する小さな公園では、遊具があるにも関わらず、子ども達に利用されていない公園や、その反対に、小さな公園にも関わらずボール遊びがみられる公園が複数ございます。

市民アンケート結果からは、利用内容を見ますと、「休憩」や「おしゃべりや交流」「通り抜け」などの割合が市内全域と比較して高い結果となっております。これは、密集した住宅地の中に小さな公園が多くあることなどから、日常生活の中での立ち寄り利用や生活動線としての利用が多いためと考えられます。

子どもアンケート結果からは、よく行く公園は、子どもの年齢層に関係なく、幸福町公園、月出町中央公園が人気となっています。

また、やってみたいことでは、クライミング、スケートボード、草花の遊びなど、これまで市内ではあまりできなかった遊びや、体を動かす遊びの割合が市内全域と比較して高くなっています。

同様に、他の中学校区についても順番にご紹介させていただきます。

第二中学校区の特徴は、大きな公園やボール遊びができる公園が無く、大和田駅南側周辺に公園がほとんど存在しないエリアがあること、小さな公園が多数整備され、同じような規模・機能の公園が分散して存在していることなどが挙げられます。

利用特性としましては、地域全体として、利用者が見られない、もしくは利用者が少ない公園が特に多い状況です。

また、市民アンケート結果からは、「公園には行かない」と回答した人の割合が他の地域と比較して最も高い結果となっております。これは、身近に公園が存在しないエリアがあることや、小さな公園が多く、ボール遊びができるような広場を備える公園がないことなどから、公園を利用する機会が少ないと考えられます。

子どもアンケート結果からは、よく行く公園として、年齢層に関係なく、大橋町公園が人気で、中学生では、校区外の北打越公園が人気となっています。

やってみたいことでは、広場やグラウンドでの遊びやボール遊び、おしゃべりが市内全域と比較して割合が高くなっており、地域内には大きな広場など、思い切り遊べる公園が少なく、遊具遊びに限定されていると考えられます。

次に、第三中学校区の特徴は、京阪沿線に商業地が広がり、事業所が多く立地しているエリアで、まちなかの広場型の公園がいくつか存在しています。

また、門真市駅や古川橋駅の南側のエリアでは、事業所や戸建住宅、集合住宅が混在する中で、特徴的な遊具や施設を備える中くらいの公園や小さな公園が比較的バランスよく存在しています。

また、大阪中央環状線以西は、旧集落地を含む住宅地となっており、小さな公園が分散して存在しています。

また、松生町では、大規模な工場跡地に新たな商業施設や子育て層向けの住宅地などの整備が予定されています。

利用特性としましては、サンジョゼ広場など、駅周辺のまちなかの広場型の公園において、休憩や飲食での利用が多くみられます。

また、小さな公園に分類する公園であっても、遊具や休憩施設などが充実している公園が多いため、多様な利用をされている公園が多くなっています。

市民アンケート結果からは、「飲食」の割合が市内全域と比較して高い結果となっております。これは、駅周辺エリアに位置していることが要因となっていると考えられます。

子どもアンケート結果からは、よく行く公園は、年齢層によって異なり、それぞれの年齢層に応じた遊びやすい公園があることが伺えます。

また、やってみたいことに対する回答が全体的に低く、子ども達にとって遊びやすい公園が多く、比較的利用ニーズは満たされていると考えられます。

次に、第四中学校区は、昭和 40 年代に整備された住宅地であり、第一種低層住居専用地域の庭木や住宅地の植栽やプレイロットなど、公園以外にもみどりが多い地域となっています。

また、南北に細長い形が特徴的な千石東公園のほか、遊歩道や植栽の多い住宅地に接する道路、桜並木の水路など、線形のみどりの資源が多く存在しています。

また、下馬伏南公園や四宮 3 号公園では、面積規模の比較的大きな広場で高齢者のグラウンドゴルフや子ども達のボール遊びなどに利用されています。

また、戸建住宅地内には、小さな公園が分散して存在しています。

利用特性としましては、地域全体として、利用がほとんどない公園が多く見受けられます。

また、小さな公園では、遊具があるにも関わらず、子ども達の遊具遊びが見られない公園が多くみられます。

市民アンケート結果からは、「自分一人で行く」「友人・知人と行く」の割合が市全域と比較して高い結果となっております。これは、千石東公園をはじめ、清掃や花壇づくりなどのコミュニティ活動が活発で、自治会館と併設された公園も多いことなどから、コミュニティ活動の場としてよく利用されていることが関連しているものと考えられます。

子どもアンケート結果からは、よく行く公園として、工業地に立地する四宮3号公園に集中しており、校区外の弁天池公園の利用も多い状況です。

また、小学2年生の回答では、良く行く公園に対する回答が少なく、やってみたいことについても多くの項目で他の地域よりも低くなっていることから、年齢層の低い子ども達にとって身近で普段使いできる公園が少ないと考えられます。

次に、第五中学校区の特徴は、広場や池、樹林地、水景施設など多様な環境をもつ弁天池公園や、球技が可能なグラウンドを有する四宮公園は、地域を超えて多くの市民に利用されています。

また、地域内に大・中・小それぞれの公園が比較的バランスよく存在しており、大きな広場をもつ公園や子ども達に人気の遊具がある公園が多く存在しています。

また、国道163号以南は、住宅地と工業地が混在しており、昼間人口が多く、工場や事業所の近くにある公園では、従業員の利用もみられます。

また、国道163号以北は旧集落を含む住宅地となっており、複数の小さな公園が分散して存在しています。

利用特性としましては、弁天池公園や四宮公園は多様な利用がみられる。四宮公園は近隣の事業所の方の休憩場所として利用されています。

市民アンケート結果からは、「公園には行かない」の割合が最も低く、公園を利用している人の割合が高い地域となっています。これは、弁天池公園があることや、そのほかにも中くらいの公園や小さな公園もバランスよく存在していることから、地域住民にとって身近に公園があるためと考えられます。

子どもアンケート結果からは、よく行く公園は、子どもの年齢層に関係なく、四宮1号公園、弁天池公園、四宮3号公園が人気で利

<p>加我会長</p>	<p>用が集中しています。</p> <p>また、中学生のよく行く公園の回答率が高く、中学生が利用しやすい大きな公園が地域内に複数存在することから、大きな公園に集まって友達とのおしゃべりやボール遊びをしている子ども達が多い様子が伺えます。</p> <p>次に、第七中学校区について、北打越公園は、野球やサッカーなどの球技ができるグラウンドを有しており、地域を超えて多くの市民に利用されています。</p> <p>また、地域の中央を南北に広がる住宅地では、中くらいの公園と小さな公園が比較的バランスよく存在し、特に中くらいの公園では多様な利用がなされています。</p> <p>一方、東田町公園は、ボール遊びができる大きな広場を有していますが、工場地にあり、古川が分断要素となっていることから、利用者が少ないと考えられます。</p> <p>また、第二京阪道路以南は、門真南駅周辺など比較的新しくできたまちとなっており、門真南公園や門真南緑地など面積が大きい公園が存在しています。</p> <p>利用特性としましては、中くらいの公園や、住宅地内の小さな公園は利用者が見られる一方で、旧集落や工業地の中に立地する小さな公園の利用者が少ない状況が伺えます。</p> <p>市民アンケート結果からは、利用内容を見ますと、「遊具遊び」の割合が市内全域と比較して特に低い結果となっております。また、「ボール遊び」もやや低く、自由記述の中では、「特定の公園に子どもが集中して遊びづらい。」といった意見があることなどから、中くらいの公園は充実しているものの、各年齢層の子どもたちにとって身近で遊びやすい公園が少ない状況であると考えられます。</p> <p>子どもアンケート結果からは、下三ツ島公園は年齢層に関係なく利用されており、年齢層によりそれぞれよく行く公園があることが伺えます。</p> <p>また、小学2年生のやってみたいことでは、遊具遊びや広場遊びの割合が市内全域と比較して高いことから、年齢層の低い子ども達にとって遊びやすい公園が求められていると考えられます。</p> <p>説明は以上でございます。現状把握の視点として、過不足がないかなど、ご意見を頂戴できればと思います。</p> <p>6つの中学校区ごとに、各公園の置かれている地域の特徴と、利用実態調査結果と、公園の利用状況や希望に関するアンケート、小学校中学校へのアンケートの結果を整理していただきました。情報</p>
-------------	--

	<p>量が多く、かつ短時間でご説明いただいたので、すぐには理解が難しいと思うので、意見交換しながら確認できればと思います。</p> <p>まず、はすはな中から、構成も含めてご意見をいただければと思います。</p>
佐久間副会長	<p>凡例の、施設からみた機能の地域コミュニティとは何か教えていただけますか。</p>
加我会長	<p>凡例には、公園の中にある施設を主に書いていただいているが、地域コミュニティだけ施設ではないと思う。何を整理していただいていますでしょうか。</p>
事務局	<p>公園の中にある地域の掲示板や、防災倉庫を含めた地域で利用されている倉庫がありますので、それを地域コミュニティとして分類しております。</p>
加我会長	<p>グラウンドは施設ですよ。トイレも、駐車場も、防災施設も施設だが、休憩、健康は施設ではないですね。地域コミュニティは、施設でも機能でもないですね。掲示板や倉庫など、集まりきっかけとなるものがある、ということ整理していただいたということはよくわかるが、おそらくネーミングが大事。どのように書いたらよいでしょうか。</p>
事務局	<p>コミュニティ活動を、自治会で活動されているということが見受けられるということで整理しましたが、ネーミングを検討したいと思います。</p>
加我会長	<p>どこにでも掲示板はあるのでしょうか。倉庫は確かに、活動をしないとならないと思う。掲示板の無い公園はたくさんあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>先程の袋小路型や、市民の目に触れにくい場所ではなく、市民が通行する道路に接している公園や、交差点部にある公園については、市の広報板や自治会で掲示板が設置されています。すべての公園についているわけではないので、その中で特徴づけて地域コミュニティとして表現しています。</p>
加我会長	<p>はすはな中学校区で見ると、ピンク色のアイコンが入っていない</p>

佐久間副会長	<p>ものが半分か 1/3 程ある。捉える視点としては大事ということですね。ネーミングは考えていただければと思います。</p> <p>必要な説明は入れていただければと思います。</p>
加我会長	<p>このページについて、全中学校区に共通することだが、公園をとりまく地域の特徴で書く、ということ意識して欲しいと思います。まず、京阪本線沿線は商業地が広がり…というのは地域の状況だと思う。その次に、数多く存在する小さな公園…というのは良いが、休憩などの立ち寄り利用や通り抜け利用が多くみられます、というのは利用状況なので、ここでは未だわからない情報です。先に書きすぎている。…想定される、というのは、皆さんが見てこられていることなので正しい情報だと思いますが、せつかく利用状況調査をしているので、利用のことは次のページで出てこないとおかしい。その次にも、あまり利用されていない公園が複数見られます、と、利用ニーズとの不一致などにより、というのは、施設等からみた機能と、利用実態調査の結果が違うからわかることで、先に出てしまっているので気を付けていただきたい。</p>
事務局	<p>公園をとりまく地域の特徴、という項目は、実はカルテ全体を簡単にまとめようとして試みた部分でございます。はすはな中学校区の公園と地域について、利用を含めて、書く場所が良くなかったかと思えます。いちばん最後などに書くべき内容であったかと思えます。</p>
加我会長	<p>これは、アンケートを含めて、はすはな中学校区はこういう地域だというまとめになるのですか。</p>
良委員	<p>地域の特徴だけ書くのであれば、前に持ってくるべきだと思いますが、会長のおっしゃるように、中身がすべて入ったような内容が前に来ています。背景としては、前に書いておくべきことかと思うので、まとめはまとめで、きちんと最後にまとめた方が良いと思います。</p>
加我会長	<p>最後にまとめがあるのは良いと思います。ここは、公園をとりまく地域の特徴という、客観的事実として書くべきで、まとめはまとめとして、必要だと思います。</p>



事務局	表題に対応した形の記述にするようにさせていただきます。
加我会長	<p>まとめを先に書かれているので、それなら後ろはいらぬ、ということになってしまいます。せつかくやってこられたのに公園の立地特性と、現状の機能というものの説明がない。それでは、はすはな中学校区における公園の状況、とか。地域の特徴、ではない。公園の特徴、などが適切ではないでしょうか。あくまでも公園のことを扱っているのて。</p>
佐久間副会長	まとめ、ということをおわかりやすくすればよいと思います。
松本委員	<p>凡例のところて、大中小というカテゴリー分けをされているところて、公園種別の大きな、中くらい、小さな、という分類について定量的に基準を書いているので理解できますが、施設等からみた機能の中で、遊びの広場の中と小、グラウンド、これらの仕分けについてはどのようにされていますか。定量的に書けるのであれば、基準を示した方がよいと思います。</p>
事務局	<p>グラウンドについては、大きな公園が弁天池公園、四宮公園、北打越公園というスポーツができる公園がありますので、これらに限ったものです。また、中と小の仕分けについては、利用実態調査でボール遊びや走り回るなどの様子が見られる公園の広場の面積が概ね 60 から 70 m<sup>2</sup>程であったことから、これを基準として仮設的に設定し、これ以下を広場小、これ以上を広場中としています。</p>
加我会長	それも、地域コミュニティと同じく良い単位だと思つので、明記していただきたい。
加我会長	<p>はすはな中学校区は、休憩などの立ち寄り利用や通り抜け利用が他地域よりも多くみられ、小さな公園の中で利用ニーズとの不一致が生じている公園が多く見受けられる状況であるということです。</p> <p>次に、第二中学校から第四中学校区くらいまでで、ご意見はありますでしょうか。</p>
佐久間副会長	<p>子どもアンケートについて、校区ごとに差があることが興味深く感じました。説明の中で、第三中学校区のやってみたいことは、全体として少なかったので利用ニーズは満たされている、ということでした。一方で、第四中学校区の同じところで、全体的には低かつ</p>

加我会長	<p>たけれども、普段使いは少ない、という説明だったのはなぜでしょうか。</p> <p>やってみたいことが少ないから、もう満足している、ということでしょうか。</p>
事務局	<p>少し言い過ぎているところもあるかもしれませんが、公園の特徴も踏まえると、第三中学校区の中には、小さな公園に分類されていても、少し大きめで、遊具があったり広場があったりする公園が多い状況で、たとえば柳町公園のほか、その周りにも 1000 m<sup>2</sup>以上の一番柳田二号緑地公園や、若葉公園など、地域内で見たときに遊びのバリエーションが確保されており、子ども達が遊びやすい地域なのではないか、ということも踏まえたうえで、ニーズが満たされている、という考察をさせていただいています。</p>
加我会長	<p>まず、施設などからみた機能のアイコンが、1,000 m<sup>2</sup>程の公園では多く、それに応じて利用状況も対応しているということから言えていると思います。もうひとつ、1日当たりの利用者数でも、1人から4人の公園が他の地域よりも少ないということもあり、十分利用されているということが言えると思います。そのため、やってみたいことがあまりでてこなかった、ということかと思えます。ここで、第四中学校区をみると、同じようにやってみたいことが少ない、かつ、小学校2年生がよく行く公園が少ないから、満たされていないと解釈したということかと思えます。利用実態調査の結果を見ると、第三中学校区の1,000 m<sup>2</sup>程というクラスと比べると非常に小さい公園だということもあろうかと思いますが、一日当たりの利用者数が1人から4人の公園が多いということです。</p>
事務局	<p>こちらのエリアは、戸建ての開発行為で整備された公園が多い。先ほどの第三中学校区では、区画整理に伴って整備された公園が多く、遊具の配置などについても区画整理の組合で検討いただきながら整備されています。一方で、戸建エリアの中では開発指導の中ですべり台だけといった公園が多いので、小さなお子さんが立ち寄って遊ぶ、ということは比較的少ないと考えています。</p>
加我会長	<p>第五中学校区、第七中学校区まででいかがでしょうか。</p>
松本委員	<p>第三中学校区のアンケート結果について、公園に行く目的の中で、飲食が他地域と比べて高いということですが、これはどのよう</p>

事務局	<p>な飲食のイメージで答えられているのでしょうか。周辺に飲食物を購入できる場所があるのかなど、何か分析はされていますでしょうか。</p> <p>舗装面の多いようなまちなかの広場のような公園が多くあり、実際に見られた利用内容としては、お弁当を食べていたりということで把握しています。まちなかでお店も多く、近くの事業所でお勤めの方がお昼に過ごされている様子が、アンケートの飲食という形で表れていると考えています。</p> <p>駅に近いエリアであり、徒歩圏にコンビニエンスストアも多くあるため、そこでお昼を買って公園で食べる、ということがあると思います。積極的に、カフェが併設されているとか、そういったわけではありません。</p>
加我会長	<p>そういったことが、特にサンジョゼ広場や、末広町北公園、新橋町公園、元町中央公園などで休憩や飲食のアイコンが出てきたということですね。</p>
事務局	<p>ほぼ遊具が無く、ベンチや日陰が少しあるというのが特徴の公園となっています。</p>
加我会長	<p>利用実態調査で飲食が見られ、アンケート調査でも飲食が若干高くなっているということです。</p> <p>私も初めて経験するくらい、精緻に調査を実施されており、それを極力公園毎に落としこいていこうということと絡めて、よくデータ整理をいただいているかと思います。</p> <p>それでは、案件4 市民ワークショップの進捗状況と今後の進め方ということで、ご説明をお願いします。</p>
事務局	<p><u>案件4 市民ワークショップの進捗状況と今後の進め方について</u></p> <p>お手元の資料4-1「かどまパークミーティングの進捗状況と今後の進め方について」、資料4-2「かどまパークミーティングニュース1号」に沿って説明させていただきます。</p> <p>市民ワークショップは、本日時点で、全体の第2回にあたります、地域別1回目の全6地域が終了したところがございます。今後は11月から12月にかけて、全体の第3回にあたります、地域別2回目を実施予定です。また、1月から2月ごろに最終のワークショップを</p>

予定しており、これまでにご参加いただいた方々にお集りいただき、発表会形式での実施を予定しております。

2ページ目をご覧ください。全体の第1回では、合計36名の方にご参加いただくことができました。その結果は資料3-2のニュースにてまとめ、ホームページ等で公開しております。

3ページ目をご覧ください。第2回および第3回では、「こんな公園になったら良いな」と思う公園について、公園の大きさや公園の周辺環境も考慮しながら、「利用者・だれが」「利用内容・どんなことができればよいか」「施設・そのために必要なもの」の3つの要素の組み合わせを考えるワークショップを地域ごとに実施しており、それを楽しく考えていただくための工夫として「パークイノベーションゲーム」というゲーム形式で実施しております。

次回は、各地域の状況を模した模式図を用いて、地域ごとの特性を踏まえた公園の役割分担や特色ある公園、利活用のアイデアなどについて話し合い、各地域のプランを完成させ、最終回では全6地域のプランを揃えることで、全市域のモデルプランとして共有することを目指しております。

4ページ目以降は、第2回の各地域での主な意見と、第3回ワークショップにおける意見交換のポイントを示しております。

まず、はすはな中学校区では、コミュニティ形成のきっかけづくりに公園を活かす、子ども達のがのびのび遊べて子育て世代が使いやすい公園にする、といった意見が特徴的でしたので、次回は、公園の立地を活かして、子育て世代が利用しやすい公園について考えよう、コミュニティづくりのきっかけになるような公園について考えることが意見交換のポイントとなると考えております。

同様に、各地域の次回ワークショップでの意見交換のポイントに絞ってご説明させていただきます。

第二中学校区では、お年寄りや幼児連れの親子が使いやすい公園について考えよう、子ども達の遊び場として、個性的な公園とはどんな公園か考えてみよう、といったことについて、意見交換ができればと考えております。また、拡張予定の公園もごございますので、その活用などについても一緒に検討できればと考えております。

次に、第三中学校区では、いろんな人が訪れる、駅周辺や京阪沿線の公園について考えてみよう、中くらいの公園の役割について考えてみよう、小さな公園の特色づけについて考えてみよう、といったことについて、意見交換ができればと考えております。

次に、第四中学校区では、子ども達もお年寄りも使いやすく、地域の見守りにつながる公園について考えてみよう、歩きやすいま

	<p>ち、立ち寄りやすい公園について考えてみよう、といったことについて、意見交換ができればと考えております。</p> <p>次に、第五中学校区では、大中小公園の使い分けと利活用について考えてみよう、弁天池公園の特長づけと利活用イメージについて考えてみよう、といったことについて、意見交換ができればと考えております。</p> <p>最後に、第七中学校区地域では複数の中小公園を活かして、子ども達の多様な遊び場になる公園について考えよう、地域コミュニティが育まれる公園とはどんな公園か考えてみよう、といったことについて、意見交換できればと考えております。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
加我会長	<p>主に、各中学校区でワークショップの第3回を迎えるにあたっての意見交換のポイントを中心に、いただいたご意見をまとめると、こういったことを考えた方が良いのではということで、各地域の特徴が出てきていると思います。ご意見等がありますでしょうか。</p>
佐久間副会長	<p>ワークショップについてはご説明で疑問点はありませんが、全体の検討との関係について、次回審議会が方針を確認する回だとすると、今回は方針の決め方を確認する回になると思います。次回に向けて、何を、どのように検討して、方針が出てくるのか、ということが理解できていません。資料の2-3がそれに類するご説明かと思いますが、例えば、方針イメージの右下のオレンジの輪が利用の単位のイメージなのかな、と思っはいますが、今日のカルテや、公園のタイプの話から、こういったイメージが出てくるということなのでしょう。ワークショップのご説明の中ではモデルプランという話もあったので、モデルプランであれば、考え方の整理といえますか、小規模公園ですみ分けしていこう、ということや、利用が少ない公園は売却や別の形を考えると、考え方は出てくると思いますが、その考え方を示したうえで、第3回の審議会で方針イメージのたたき台が出てくるのかというと、もう1ステップあるように思います。そのあたりのお考えをお聞きしたいです。本当に、精緻に調査していただき、カルテは非常に良くできていると思いますが、次に方針が来るとすれば、どのように描けるのか、今日議論できれば少し安心かと思えます。</p>
加我会長	<p>どのようなアウトプットで、そのアウトプットに向けてどのようなつながっていくかということかと思えます。事務局からお願いしま</p>

事務局	<p>す。</p> <p>資料 2-3 について、方針イメージの前に、検討が必要な方策案という項目を示しております。参加者の方々のご意見を中心に置きながらも、これについても、ワークショップの場でも話題提供していきたいと考えています。反応も見ながら、すべてを市民の方々に考えていただくというわけにもいかないのです、事務局の方で、市民の方々の考えをくみ取って、方針イメージのようなたたき台を作るようなイメージかと考えています。</p> <p>今回のワークショップでは、公園を利活用していただくという点で貴重なご意見をいただいているので、単純に利用者が少ないから廃止するというような議論になってしまう恐れもありましたので、ご意見もいただいたうえで、利用の少ない公園でも、買い物の途中で休憩されているとか、そういった実生活の中でのご意見も踏まえ、方策を事務局で検討し、第3回の審議会でお示ししたいと考えています。この方策という部分で、お気づきの点があれば、ご意見いただきたいと思えます。</p>
加我会長	<p>例えば、はすなは中学校では、公園の立地を活かして、子育て世代が利用しやすい公園について考えよう、コミュニティづくりのきっかけとなるような公園について考えよう、ということだけだと、新規整備や廃止といったことはあまり議論されない、もしくは、地域主体の利用ルールづくりには発展せず、プログラム中心の議論になるけれども、全体の方針として、はすなは中学校区を眺めてみたら、今回のカルテの結果も踏まえて、機能特化、強化、転換するところはどこかというアウトプットは出てくるということですよ。そして、そういったことに関してハレーションがあるかどうか、くらしいことはワークショップで雰囲気聞いてみる。必ずしも、意見交換のポイントだけで整理するわけではないということですね。</p>
佐久間副会長	<p>このワークショップをプログラムするのは大変難しい。</p>
加我会長	<p>あと、第2回では、こんな公園になったらいいな、ということ、小さな公園、中くらいの公園、大きな公園で地域の中の公園をイメージしながら作ってもらいました。次回は、場所や周辺環境も見ながら、配置モデルプランを作ってみましょうということですが、カルテのように、この公園をどうするのか、ということ、生々しく検討するのですか。</p>

事務局	<p>地域の模式図を作っており、特に小さな公園の実名まで挙げると差しさわりのある場合もあるため、〇〇町エリア、といった形で、利用されていない公園がたくさんあるエリアはどうするか、とか、中核になるような中くらいの公園をグレードアップするためにはどうしたらよいか、といった形で話題を振っていきながら、これまでは市民ひとりひとりのご意見をうかがってきましたが、今回は全員で一枚の地域の公園配置図を見ながら、住宅エリア、工場エリア、商業エリアといったことを模式図に表現しているので、そのエリアに応じた公園について全員で考えるワークショップをしたいと考えています。</p>
加我会長	<p>具体的にこの公園はいらない、ということではなく、中くらいの公園、小さな公園、大きな公園が、たとえばこのエリアにあるとしたら、ということで、地域のモデルプランとして検討するということですね。方針レベルで検討して、それを、市とコンサルさんなどで具体化していくということですね。それに向けてハレーションが起こりそうかどうかを、ワークショップで探るということです。</p>
事務局	<p>確かに、小さな公園をもっと利活用していくべきという意見と、使っていない公園は整理していくべきという意見と、両方確かにあった。その雰囲気は地域ごとに違っていました。最終的に、ワークショップに参加いただいた方々のご意見だけで計画を作るのは問題がありますので、参考にしながら事務局で整理すべきと考えています。</p>
加我会長	<p>公園づくりのワークショップとは違って、いただいた意見は変更があったとしてもほぼそのままのものとして出来上がるというのがひとつのストーリーですが、今回は必ずしもそうではないということですね。</p>
事務局	<p>ご意見をいただく中でも、近隣の公園で面積が取れないということとはご理解いただいております、大規模なものであれば、深北緑地や鶴見緑地へ行ったりするという使い分けをされている。ただし、身近な生活動線の中でどういった使い方があるのかということは、俯瞰してみると違った見え方がある、というご意見もいただいておりますので、どういった繋がりをもっていくのかとか、我々としても新たな視点を持つことができました。単体の公園を作るとなると、の</p>

	<p>ちに管理していただきたいという思いもありながら進めるということもありますが、今回は、皆さんが個人的に必要なと思われることも引き出していきたいと考えています。難しい作業ではありますが、一定の成果が得られるのではないかと考えています。</p>
<p>加我会長</p>	<p>最後の再整備・再配置方針を行政で立ち上げるにあたって、ここに盛り込むべき考え方、公園の見方のようなことを、市民の方々に教えていただくというのが、今回のワークショップの目的になると思います。それが無ければ、利用実態調査や配置形態などから判断して、いる・いらぬとしてしまうけれども、こんな見方で考えたら、単純に判断してはいけないということ、教えてもらう。場合によっては、利用実態は、今の状況なので、5年前ではよく使われていたかもしれないし、将来的に変わると違う状況になることもあります。利用実態調査は下敷きにはなるが、絶対条件ではない。</p>
<p>佐久間副会長</p>	<p>前回の議論では、公園以外の話が結構あったかと思えます。公園のデータが積み上がり、公園の議論だけになってきていることが気になります。ワークショップでそこまで拾えるかわからないが、今回は公園を中心として学校や民間施設を活用しながら広場のあり方などを考えることがポイントになると思うので、次回に向けて期待しています。例えば、大和田駅のすぐ南側のエリアで公園があまりないという分析があったと思いますが、商業エリアで住民が少ないので、というのであればそれはそれだし、あるいは松生町や古川橋の開発に伴って出てくる話と連携させたり、ということは、あまりワークショップに盛り込まない方が良いのかもしれませんが、そういったことも含めた方針案を期待したいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>大和田駅の南側については、P-174 で野里町1号公園がありますが、その右上あたりで新たに寄付いただき、次年度に公園整備予定です。また、生産緑地もありますし、駅前周辺のエリアに関しては個別のプロジェクトでエリアマネジメントの取り組みの中でも議論されていくということもありますので、市民ワークショップでもご意見を伺いやすそうなことについてはお尋ねしたいと考えています。しかし、一つの中学校区の中でも自分の住んでいないエリアのことはイメージ湧きにくいと思いますので、地元の自治会からのご意見をいただきつつ、アイデアがあれば、ということで簡単にお尋ねする機会もあると思う。こういった案件があればご紹介しながら進めたいと考えています。</p>



加我会長	<p>第1回審議会では、生産緑地や学校のグラウンドとの関係性といった話があったと思います。場所や周辺環境を、ということは、第3回ワークショップに使う地図の中には農地や学校、公民館といったものがあって、地域マップとして検討するという事です。第2回では公園だけを考えてきたけれども、第3回では地域マップが刺激になって、公園のことで、地域での暮らしの中でのオープンスペースの利用ということがでてくる。そのために地域マップでやっている、ということですね。</p>
松本委員	<p>最終的に行政案を策定される際に、例えばワークショップなどでは行政の管理上では気づけないことを拾えると思いますので、そういった意味では良いと思う。ただ、その中ではなかなか出てこないと思うことは、防災的な観点のこと。特に広場機能としての存在価値や利用価値など、公共スペースがあるということに対する検討がなければ、配置論で不要、ということになってしまいますし、資料2-3の検討が必要な方策の中のひとつに防災的な観点を個別に出しておいても良いのではないのでしょうか。例えば、現地視察でも、数百㎡程度の小さな公園もたくさん見させていただいたが、それらすべてが防災上有効かどうか、個人的には懐疑的なところがあります。6パターンで分けておられる中で、4方向のうち3方向が民家で囲まれているような公園がありました。万が一の大規模な地震等があれば、建物が倒壊して、オープンスペースとしての機能は果たせず、一時避難地にもなりえないとか、そういったフィルターが、公園とその周辺の環境とセットで考え、防災的に重要性を持つかどうかということが必要ではないかと思いました。</p>
事務局	<p>小さな公園が多い中で、1,000㎡以上を超える公園については一時避難地としています。ただ、密集市街地であるかどうかということもありますし、そこへ逃げ込んでもダメということもあると思います。みどりの基本計画を先に策定しているということもあるので、そのあたりも踏まえてワークショップの中でも防災面の充実という意見はいただくけれども、効果的なのかということもありますので、そういった視点も踏まえながら、適正な配置になっているのかも検討していきたいと思います。</p>
良委員	<p>はすはな中学校などにおいて、赤い太線で囲まれている密集市街地という区分があり、正式には地震時などに著しく危険な密集市街</p>

<p>加我会長</p>	<p>地と国の制度上定義されているものがあって、それに入るかどうかの判断として燃え広がりやすさという観点がある。空地があれば燃え広がりを止められる。100㎡や200㎡の空地であっても、燃え広がりをストップさせるポイントが結構でてくるので、密集市街地内では、小さな公園であっても、重要な位置付けで存在しているものもあります。そんな小さな公園ひとつのおかげで密集市街地として指定されずに済んでいるということも可能性としてある。おっしゃっていただいているように、防災の観点は必要かと、私も改めて思いました。</p> <p>重要なお指摘であり、本日の議論では利用のことが中心で、特に市民の方々にお聞きすると利用の方が中心となってきますので、検討が必要な方策は、ワークショップからだけでは答えは出てこないということがカギになる。検討が必要な方策の中で、機能の特化・分担というところで、存在価値として、特に防災の観点から、有効に働く場所を、密集市街地の中では確保していかなければいけない、ということで評価の仕方が違うと思います。とにかく、防災的な存在価値をしっかりと確認しておくことは忘れないようにしていただければと思います。</p> <p>それでは、案件5パークイノベーション計画の策定に向けた今後の進め方について、特に社会実験について、ご説明をお願いします。</p> <p><u>案件5 門真パークイノベーション計画策定に向けた今後について</u></p>
<p>事務局</p>	<p>お手元の資料5「社会実験について」に沿って説明させていただきます。</p> <p>計画策定にあたり、社会実験として、子どもが求める公園の環境や利用ニーズを探るとともに、既成概念にとらわれない公園の楽しみ方を子どもの発想で考える参加型プロジェクト「かどまパークキッズチャレンジ」を実施し、参加者の意見や結果を計画の参考とすることを目的に3月ごろのイベント実施に向けた企画・準備を進めております。また、先日実施しました東小学校での出張授業や、11月14日に予定しております子ども LOBBY でのキャリア教育イベントを通じて、子ども達が求める公園の環境や利用のニーズを探りながら、イベントをより充実させていきたいと考えております。</p> <p>内容としましては、子ども参加型の公園イベントの企画・実践を12月ごろからはじめ、子ども達が自ら公園でやってみたいことなど</p>

<p>加我会長</p>	<p>について話し合い、その実践として、イベントとして実施することを検討しております。</p> <p>実施後は、子ども達が求める公園環境や利用ニーズ、イベント実施までの過程や実施時に把握できた公園の利活用の可能性や課題、関係者などと連携した進め方などについて振り返り、公園の利活用に関する方針や具体方策などとして計画へ反映させることを目指しております。</p> <p>以上で説明を終わります。</p> <p>今回の社会実験では子どもを中心に考えてみようということで、出張授業や子ども LOBBY のイベント、3月に子どもと一緒に弁天池公園でのイベント実施を予定されているということで、ご意見はございますか。</p>
<p>佐久間副会長</p>	<p>子ども園長は楽しそうで良いな、と思いました。出張授業も楽しそうだなと思うのですが、もう少し様子を詳しくお聞かせいただきたいです。また、子ども LOBBY は政策的にはどういった位置づけかお教えいただけますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>東小学校での出張授業についてですが、もともと東小学校の5年生から公園でボール遊びがなぜできないのか、ということについて市へ問合せがあり、ボール遊びができる公園を作りたいという子ども達の声がありましたので、市からその理由などをお伝えさせていただきました。さらに、それをできるようにしていくにはどうしたらよいのか、ということ、出張授業としてさせていただきました。もともと、このクラスの子供達は、ボール遊びができる公園を作りたいという考えがすごくあったのですが、ゲーム形式で授業をする中で、自分たちの求めるボール遊びだけではだめで、高齢者の方が使えるようなところも必要だというように、自分たちの事だけでなく、ほかの利用者の方のことも考え、公園のしくみなどについても自主的に考えてくれたということがすごく印象的でした。</p>
<p>佐久間副会長</p>	<p>なんだかすごく良い話ですね。</p>
<p>加我会長</p>	<p>3,000 m<sup>2</sup>の公園がありますが、だいたい1,000 m<sup>2</sup>越えの公園もいくつかあるところですね。誰が、どのような場所で、何をするか、ということ、それぞれの公園についてシールを使って考えてもらいました。私たちはボール遊びがしたい、ということから始まりま</p>

	<p>したが、ボール遊びするならこんなことに配慮しないとイケないな、とか、この公園では無理だね、という話になり、高齢の方のための場所も必要だね、といったことをみんなで考えるきっかけとなったということですね。</p> <p>この出張授業の日だけではなく、市の方へ電話で連絡が来たということですが、10月以降から担任の先生が公園でのボール遊びって、なぜできないんだろうとか、誰が止めているんだろうとか、みんな公園でどんなことをしたいと思っているかアンケート調査をしたりといった学習をされている中の1回として出張授業を実施させていただいたということで、またこれをきっかけに公園への見方が変わっていく、ということに取り組まれているということです。そのあたりも、担任の先生からご紹介いただけるような機会があればよいかもしれません。</p> <p>次に、子ども LOBBY のご紹介もお願いします。</p>
事務局	<p>所管は子ども部、保育園・幼稚園、子ども政策を所管している部署がありまして、子ども達の学ぶ機会や場所、相談できる場所を持ちたいということで、門真市駅の南側のイズミヤが入っている門真プラザの三階にございます。既にこの春からキャリア教育ということで、企業の方々に授業のようなことをしていただくことで、子ども達に将来のキャリアイメージを持っていただけるように、小中学生の時点から、こんな仕事があるという紹介や、こんな仕事をするためにはどうしたらよいか、ということを経験できる施設となっています。毎週日曜日の午後などに実施しています。その中で、他部局間連携の話もありましたので、子ども達が使う公園についても考えていきたいということで、キャリア教育イベントの1コマをいただきまして、11月14日に実施する予定です。また、その延長として、3月には弁天池公園に都市計画公園外の更地の土地がありますので、そちらでどういったことができるのか、考えて実際に実現させてあげたいということで企画したものです。</p>
加我会長	<p>公園デザイナーという仕事が、造園だったりランドスケープアーキテクトであったりということは、大人の方々でも知られていないことですので、是非、子ども達にも宣伝していただければと思います。</p> <p>では、今日の案件は以上ですので、その他、事務局の方から連絡事項等ありましたらお願いします。</p>
事務局	

加我会長	<p>次回、第3回の審議会は、令和4年3月下旬で開催させていただく予定です。後日改めて日程調整させていただきますので、よろしくお願い致します。</p> <p>次回の審議会までイベント等目白押しでワークショップ等もありますので、また楽しみにしています。では、本日の審議会は以上で終了させていただきます。委員の皆様、ありがとうございました。</p> <p>—終了—</p>
------	--